

役員一覧 / Officer

会長	内山 真（株式会社 内山鑑定事務所）
副会長	井上 浩一（株式会社 高本損害鑑定事務所）
	加藤 友好（株式会社 名鑑）
	中村 司（有限会社 北陸損保鑑定）
専務理事	梅田 厚
理事	五十嵐 章（株式会社 札幌鑑定）
	岩泉 和則（株式会社 東鑑）
	太田 英俊（株式会社 中央損保鑑定）
	藤得 牧（東京損保鑑定 株式会社）
	野田 昇一（株式会社 かがやき鑑定）
	野間 隆則（西日本鑑定 株式会社）
	藤原 昌明（株式会社 三和鑑定事務所）
	森園 哲之（株式会社 福岡損保鑑定）
監事	中川 博史（税理士法人 AIO）

※五十音

会場アクセス / Access



● 電車をご利用の場合

三井住友銀行東館 ライジング・スクエア

- 東京メトロ 丸ノ内線・半蔵門線・千代田線・東西線・都営三田線「大手町駅」C14番出口直結。
 - JR「東京駅」丸の内北口より徒歩約5分。

フクラシア東京ステーション

- 東京メトロ 丸ノ内線・半蔵門線・千代田線・東西線・都営三田線「大手町駅」B8a番出口直結。
 - JR「東京駅」日本橋口より徒歩約3分。

主催・フォーラム運営本部

一般社団法人 日本損害保険鑑定人協会

<http://www.kanteinin.or.jp/>
〒101-8335 東京都千代田区神田淡路町2-9 TEL 03-3254-6454 (代)

第4回

損害保険鑑定人 フォーラム



2017.11.10(金) - 11(土)

メイン会場・ブースエリア

三井住友銀行東館
ライジング・スクエア3F SMBCホール

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-3-3

ネットワークミーティング

フクラシア東京ステーション5F H会議室

〒100-0004 東京都千代田区丸の内2-6-1

10日	13:30～17:40	講演、パネルディスカッションなど
	18:30～20:30	ネットワークミーティング
11日	09:30～16:30	講演、パネルディスカッションなど

〈主催〉

一般社団法人 日本損害保険鑑定人協会

DAY1

13:30 - 17:50

テーマ①

首都圏直下型地震への対応

会長メッセージ / Message



本日はお忙しい中、第4回損害保険鑑定人フォーラムにご参加頂き誠に有難うございます。

今回のフォーラムにつきましては、北は北海道、南は沖縄から、200人近くの鑑定人と損害保険業界関係者60人余りに参加申込みをいただいております。重ねてお礼申し上げます。ありがとうございます。

ところで当協会会員所属の鑑定人は、おかげさまでこのところ増加しており、現在1,000人に達しようとしています。都合、日本の主たる専業鑑定人の5人に1人は、本日此処に集まっていることになりますので、この時間・場所の重要性を改めて感じているところです。大型台風21号等の被害も各地で発生している中、ご参集頂いた皆さまのご協力に改めて感謝申し上げると同時に、皆さまの期待に応えるよう、運営スタッフ一同、精一杯の力を発揮したいと存じますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

また、今回も当協会以外から多彩な学識経験者を講演者としてお招きしております、テーマに応じて専門家としての視点から知見をご披露いただくことになっております。どうぞ、ご期待ください。そして、本会場の外のホワイエにおいて、業務に関連した各方面の8つの企業・団体様からブース展示をいただいております。こちらも是非存分にご覧いただきたいと思います。

さて、今回のフォーラムのメインテーマは、MISSION(使命)としました。損害保険商品が、保険金というかたちとなってお客様のもとに届けられる時、その結果に大きな影響を与えるかたちで関与するのが、損害保険鑑定人です。損害保険鑑定人の算出額のみならず、現場での言動等が、その損害保険のある意味、商品品質として受け取られ、お客様から評価されることとなる現状に鑑みますと、損害保険鑑定人に求められる知識や行動、専門性は、これまでにも益して重要となっていることは間違ひありません。

私たちはその現実を受け入れ、専門性を高め、使命を果たしてゆかねばならないのだと思います。

私たちは、この第4回フォーラムを契機として、自らの業務領域を再確認し、コンプライアンスにかなった鑑定サービスを通じて、さらに社会に貢献してゆきたいと考えます。

本日と明日の2日間に渡り、出席者の皆様とのさまざまな意見交換を通じて、実りあるイベントとなれば幸いです。

一般社団法人 日本損害保険鑑定人協会
会長 内山 真



提供: PIXTA

コーディネーター



岩泉 和則
日本損害保険鑑定人協会 理事

我が国の中核機能を直撃する“首都直下地震”、東海・東南海・南海地震のそれぞれが連動して発生するとされる“三連動地震”、これらの巨大地震は何れも近い将来、高い確率で発生し、大都市圏に甚大な被害を及ぼすものと言われております。

迅速・公正な損害調査を行う『使命-MISSION-』を負っている私たち鑑定人は、これらの巨大地震に備え日頃から知識と技術に磨きを掛け、また広い知見を持つ必要があるものと考え、「建築行政」・「免震構造」をテーマと致しました。

また、損保協会様が開発された「地震アプリケーション」についてご説明頂き、今後の地震保険調査で有効活用するべく情報を共有する場も設けました。

講演後のパネルディスカッションでは、ご講演頂きます熊本市都市建設局の粟田様、北海道大学大学院教授の菊地様に加え、熊本地震で損害調査に奔走された鑑定人も参加し、ご講演内容に関する確認と現地損害調査の経験に基づく実態面での課題や気付きについて掘り下げてみたいと考えております。

プログラム / Program

講 演

第一部導入・動画放送(首都圏直下型地震の被害) / 岩泉 和則

熊本地震に見る建物被害の実態 / 粟田 修 (熊本市 都市建設局 都市政策部 建築指導課 主幹兼主査)

免震構造の実態性能と社会の評価 / 菊地 優 (北海道大学大学院工学研究院 建築都市空間デザイン部門 教授)

コーヒーブレイク(20分)

講 演

地震保険損害調査における地震アプリケーションの活用

一般社団法人 日本損害保険協会 久保田 秀人 (火災新種損害調査PT 地震アプリワーキンググループ リーダー)
木村 峻 (損害サービス企画部 地震・火災・新種グループ)

コーヒーブレイク(20分)

パネルディスカッション

コーディネーター: 岩泉 和則

パネラー: 粟田 修 (熊本市 都市建設局 都市政策部)
菊地 優 (北海道大学大学院 工学研究院)
三浦 和也 (株式会社 高本損害鑑定事務所)
高田 大輔 (株式会社 福岡損保鑑定)

※当日の都合等により、やむを得ずスケジュールに変更が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。

DAY2

9:30-12:00

テーマ②

落雷



提供：音羽電機工業株式会社

このパートでは、第3回鑑定人フォーラムのアンケートで、採用して欲しいテーマとして多くの意見を頂いた「落雷」を取り上げます。

二酸化炭素の排出により進行する地球温暖化は、気温の上昇だけでなく、ゲリラ豪雨、大型台風の襲来、そして落雷の頻発など様々な気候変動を引き起こしています。現在のペースで地球温暖化が進むと、更にこの傾向が強まり、落雷件数も増加し続け、今世紀末には落雷の件数は現在より50%増加するという研究報告もあります。また電子機器は、小型化・高性能化することで、小さな電流で動作するようになり、雷サージの影響を受けやすくなっています。さらに機器がネットワークに繋がることで、雷サージの侵入経路も拡大するなど、雷による被害額も増加する傾向にあります。一方、損害査定の現場では、落雷の被害が目視で分からぬいケース、落雷との因果関係が不明瞭なケースなど、査定を進めるうえで困難を伴うことが多く、我々鑑定人は、より雷に関する知識を深め、査定技術を向上させていく必要があると感じます。

最初に、日本で唯一の「雷」対策専門メーカーとして、雷の脅威から施設・機器をまもる雷対策機器の製造・販売および雷保護のコンサルティングなどをおこなう音羽電機工業株式会社様より、雷の仕組み・被害要因・雷対策など、広く雷に関する知識について講演頂きます。続いて、独自の雷観測ネットワークを全国に展開し、そのデータを広く社会に提供することで、インフラ・人命・産業施設の保護に大きく貢献されている株式会社フランクリン・ジャパン様より、雷の捕捉方法、地域・季節による雷の特徴など、気象学の側面からみた雷について講演頂きます。パネルディスカッションでは、これら講演内容を踏まえ、我々鑑定人は、どのように落雷事案に取り組むべきなのかを検討したいと思います。

このテーマを通して、参加された皆様が、雷に関する知識を深め、そしてより高度な査定技術を身につけ、明日からの業務に生かして頂きたいと思います。

プログラム / Program

講 演	雷の被害と対策 / 勝本 泰弘（音羽電機工業株式会社 執行役員 営業本部第一営業部部長）
	雷の特性と観測方法 / 松井 倫弘（株式会社フランクリン・ジャパン 取締役技術部長）
コーヒーブレイク(20分)	
パネルディスカッション	コーディネーター：藤原 昌明 パネラー：勝本 泰弘（音羽電機工業株式会社） 松井 倫弘（株式会社 フランクリン・ジャパン） 竹内 康人（有限会社 むさし野損害鑑定） 三沢 裕（東京損保鑑定 株式会社）

※当日の都合等により、やむを得ずスケジュールに変更が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。

DAY2

13:00-16:00

テーマ③

モラルリスク



損害保険鑑定人フォーラムでは、第一回から欠かさず「モラルリスク」をテーマとして取り上げてきました。それだけ、モラルリスクへの取組は鑑定人にとり、とても重要な課題となっています。今回は「水濡れ事故」をテーマとして取り上げます。水濡れ事故のモラルリスクは、大きく3つのパターンに分けられます。

一つ目は事故そのものを偽装するもの、二つ目は事故時点では保険が付保されておらず、事故後に保険加入して保険請求をするアフロス、三つ目は水濡れ事故を契機に損害額を大きく請求して来る過剰請求です。

水濡れ事故のモラルリスクは、自宅や家財などの対象物に水などをかけるだけなので、契約者・被保険者が火災に比べて比較的気軽に事故をねつ造して請求してくるケースが多く見受けられ、不審点や疑問点を指摘して簡単に請求放棄となるものが多いと思われます。

最初の講演は、「水濡れ事故」が訴訟となったり、弁護士による交渉をしなければならなくなったり珍しい事案の概要やポイントについて、2名の弁護士の方に講演していただきます。

次の講演は「水濡れ事故の調査」を行う調査会社の立場から不審点の洗い出しから裏付け調査へとつながる過程の中で、いかにモラルリスクを追求したかを、アフロスの事例、故意の事故の事例、過剰・便乗請求の事例など形態別に発表していただきます。

パネルディスカッションでは「漏水モラルリスクの見極め方と対応」という観点で、水濡れ事故の事例の披露とモラル事案の注意点について、特に書類査定から実調に移行する案件やモラルリスク事案を対応する上でよく出てくる疑問点について我々鑑定人の立場から考えます。

これらを機会にそれぞれの鑑定人ならびに業界全体として、さらにモラルリスクを排除していく態勢が強化されていくことに繋がれば幸いです。

プログラム / Program

講 演	水濡れ事故のモラルリスク / 竹内 和哉（三宮法律事務所 弁護士） 松原 有里（三宮法律事務所 弁護士）
水濡れ事故の調査	/ 松本 康則（株式会社 損害保険リサーチ 調査部特命部長）
コーヒーブレイク(20分)	
パネルディスカッション	コーディネーター：藤得 牧 パネラー：中村 公彦（株式会社 三和鑑定事務所） 名幸 潤一（あおぞら総合鑑定 有限会社） 畠中 崇志（株式会社 若葉総合鑑定） 星田 豊一（株式会社 内山鑑定事務所） 向井 俊介（株式会社 かがやき鑑定） <モラルリスクWGメンバー>

※当日の都合等により、やむを得ずスケジュールに変更が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。

